

周囲の人とできること

▼家族とできること

家族が認知症と診断されても、戸惑ったり慌てたりしないでください。本人がどのような気持ちで過ごしているのかを正しく理解して、頭ごなしに叱ったり怒鳴ったりせず、温かい気持ちでゆっくり、優しく接することが大切です。

▼地域とできること

日ごろから、地域や近所での「あいさつ」や「声かけ」で親しい関係を築き、近隣に認知症の人が住んでいる場合、温かく見守り、適切な援助をしてください。

たとえば、認知症の人が徘徊していた際には、自宅へ誘導したり、家族に連絡をしたりすることで、認知症の人を介護する家族への負担は大きく軽減されます。



このように、周囲の人が認知症のことをよく理解し、認知症の人の不安な気持ちを感じ取り、助けあげることが大切です。地域全体で協力し合うことができれば、認知症になっても安心して暮らしていくことができます。

認知症の人への具体的な対応ポイント

1. まず見守る
2. 余裕をもって対応する
3. 声をかけるときは1人で
4. 後ろから声をかけない
5. 相手の目線に合わせてやさしい口調で
6. おだやかに、はっきりした滑舌^{かつせつ}で
7. 相手の言葉に耳を傾けゆっくり対応する

認知症の人への対応の心得 3つの「ない」

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない



認知症とともに生きる

認知症は決して他人事の病気ではありません。年齢に関係なく、誰でも発症する可能性があります。

もし自分が発症してしまったら？

もし家族が発症してしまったら？

そんな時に、思い悩むことなく早めに医療機関を受診し、地域の人々と協力し合うことができるように、認知症のことを知り、向き合い、そして認知症とともに生きることが出来る地域環境を作りましょう。

(参考：厚生労働省ホームページ)

認知症サポーター養成講座標準教材

認知症に関する相談窓口

桂川町地域包括支援センター

(桂川町総合福祉センター「ひまわりの

里」内) ☎05・4401

